信濃町の埋蔵文化財

長野県上水内郡信濃町

平成21年度町内遺跡発掘調査報告書

２０１０

信濃町教育委員会

例　言

1．本書は平成21年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う試掘調査及び工事立会の報告書である。
2．調査は国からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3．本書の執筆、編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
4．本調査の遺物、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。出土資料の記号は仁之倉Ａ遺跡が「09NIA」、陣場Ａ遺跡が「09JBA」、水穴遺跡が「09MA」である。
5．調査体制は次のとおりである。

調査主体者	信濃町教育委員会	
事務局	教育長	静谷一男
	教育次長	山縣一郎
	生涯学習係長	丸山茂幸
調査担当者	生涯学習係	渡辺哲也
発掘参加者		
（仁之倉Ａ遺跡）	田村勇、徳永門	
（陣場Ａ遺跡）	田村勇、徳永門、藤田桂子	
（水穴遺跡）	石田和子、田村勇、徳永門	
整理参加者	藤田桂子	

6．挿図中の土層の土色は『新版標準土色帖』（小山・竹原，1967）に基づいている。
7．出土した土器片はすべて小片で、図化が不可能であったため、実測図は示さず、写真図版のみ掲載した。
8．調査をおこなうにあたり、次の方々には多大なるご協力をいただいた。記してお礼を申し上げる次第である。（敬称略、五十音順）
青山幸正、池田秋男、池田守男、内山久寿、内山ヨシノ、大草忠和、大草務、海谷光成、海谷涼子、学校法人東洋英和女学院、信濃町産業観光課、東京大学、中山安榮、長野地方事務所、細川輝幸、細川学、有限会社古澤建築、若月長人、若月勇人

目　次

Ⅰ　信濃町の環境と遺跡……1
　1．自然的環境……1
　2．歴史的環境……2
Ⅱ　調査の内容及び成果……2
　1．川久保遺跡……3
　2．家老路城跡……3
　3．桐久保遺跡……4
　4．海端遺跡……4
　5．小丸山公園遺跡……6
　6．小丸山公園遺跡……6
　7．仁之倉Ａ遺跡（2009個人住宅地点）……7
　8．陣場Ａ遺跡（2009個人住宅地点）……8
　9．水穴遺跡（2009事務所地点）……9
　10．大道下遺跡……10
　11．御料遺跡……11
　12．御料遺跡……12
出土遺物写真……13

Ⅰ　信濃町の環境と遺跡

1．自然的環境

長野県上水内郡信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県妙高市と県境を接している。日本海に面した海岸平野の高田平野と、内陸盆地の長野盆地との間にあたり、西には北から妙高、黒姫、飯縄、東には斑尾の４つの火山がそびえている。これらの火山に挟まれた地域には、標高650～750ｍの起伏に富んだ高原状の台地が広がっている。西側の３つの火山では、南に位置する飯縄山が最も古く、12から13万年前には活動を終了している。黒姫山は古期の活動が16から11万年前で、新期の活動がおよそ６万年前に活発になり、３万年前頃には活動が衰えている。妙高山は新期の活動が10万年前頃にはじまり、約6000年前に中央火口丘が形成され、現在に至っている。これら３つの火山の活発な活動により、各火山体の東側一帯には火山灰層が広く厚く分布している。中部更新統の火山灰層は20～30ｍ、上部更新統の火山灰層は10ｍ程である。東側の斑尾山は西側の火山よりも古く、およそ30万年前には活動を終えていたと考えられている。この斑尾山の西麓に広がる緩やかな起伏の地形を、黒姫火山の崩壊によって生じた池尻川岩屑なだれ堆積物がせき止めたことにより、およそ７万年前に野尻湖の原型が誕生し

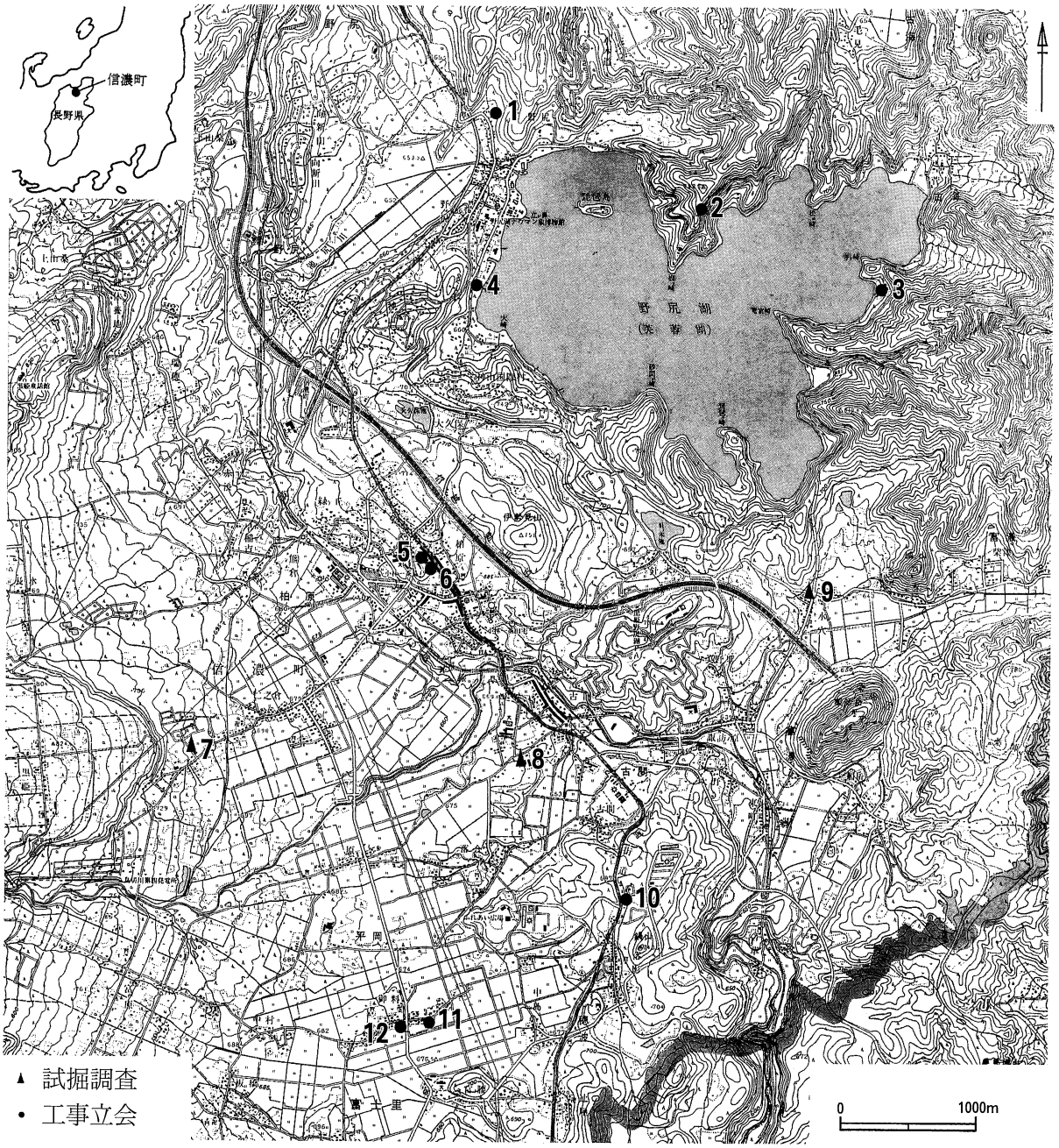


図１　調査地の位置（信濃町役場平成15年12月作成１/25,000地形図を使用）※番号は表１に対応

表１　平成21年度に調査した遺跡一覧

No.	遺跡名	よみ	原因	調査方法	調査面積	調査期間	出土点数	発掘届日	終了届日
1	川久保	かわくぼ	倉庫建設	立会	(38㎡)	8 /31	0点	8 /18	
2	家老路城跡	かろうじじょうあと	落石防護柵設置	立会	(40㎡)	11/27	0点	11/12	
3	桐久保	きりくぼ	艇庫建設	立会	(44㎡)	4 /18	0点	4 / 6	
4	海端	うみはた	休憩所建設	立会	(10㎡)	9 /16	0点	9 / 4	
5	小丸山公園	こまるやまこうえん	個人住宅建設	立会	(94㎡)	7 / 7	0点	5 /22	
6	小丸山公園	こまるやまこうえん	個人住宅建設	立会	(46㎡)	7 /22	0点	6 /30	
7	仁之倉Ａ	にのくらえー	個人住宅建設	試掘	4.8㎡	4 /16	4点	3 /31	4 /22
8	陣場Ａ	じんばえー	個人住宅建設	試掘	4.8㎡	9/14～9/15	1点	9 /10	10/28
9	水穴	みずあな	事務所建設	試掘	4.8㎡	11/9	1点	11/ 5	12/ 4
10	大道下	おおみちした	倉庫建設	立会	(42㎡)	11/10	0点	10/28	
11	御料	ごりょう	倉庫建設	立会	(45㎡)	7 / 3	0点	6 / 8	
12	御料	ごりょう	個人住宅建設	立会	(106㎡)	10/ 2	0点	8 /17	

※調査面積の内、(　) 内の数字は調査対象面積

た。現在の野尻湖は面積が3.96k㎡で、水面の標高が654mである。こうした東西の火山に挟まれて低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などが現在の人びとの居住域となっている。

野尻湖の水は池尻川から西へ流れ出し、北へ向きを変えて関川に合流し、日本海へ注ぐ。長野市戸隠を水源とする鳥居川は南西方向へ流れ、千曲川と合流し、信濃川となって日本海へ注ぐ。二つの水系の分水嶺は現在の上信越自動車道信濃町インターチェンジ付近と考えられるが、この辺りはなだらかな高原状の地形となっている。

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的冷涼で、避暑地としても利用されている。

２．歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであったことがうかがえる。野尻湖西岸の湖底に広がる立が鼻遺跡はおよそ４万年前の狩猟・解体場（キルサイト）と考えられており、野尻湖西岸をナウマンゾウとそれを追う旧石器人が往来したと考えられる。野尻湖周辺には旧石器時代～縄文時代草創期の遺跡が40ヶ所あり、その遺跡のまとまりは野尻湖遺跡群と称されている。構成する遺跡はそれぞれ面積が広く、遺物分布の密度が高くて、野尻湖の西に連なる丘陵上はとぎれることなく遺跡がつながっているような印象を受ける。近年、上信越自動車道建設や国道18号線改築工事などにより、長野県埋蔵文化財センターと信濃町教育委員会によって多数の遺跡で、広範囲に渡って発掘調査がおこなわれ、膨大な数の遺物が得られている。それらの遺物からは、各方面から人々が流入してきたことがうかがえる。

古代では東山道の支道が通っていたと推定されている。また、江戸時代には北国街道が整備され、加賀金沢藩の参勤交代や、佐渡からの金銀の運搬など、重要な街道として利用されていた。現在も国道18号線、上信越自動車道、JR 信越本線が通り、交通の要所であることに変わりはない。また、関川がかつての信濃と越後の国ざかいとなっていたため、こうした歴史的な地理的条件を備えた地域でもある。中世の山城が多いことも、交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。

信濃町には現在までに173ヶ所の遺跡が知られているが（信濃町教育委員会，2003b)、時代によって遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が集中する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数が多く、前期以降の遺跡数は少なくなる。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数は少なく、平安時代になると遺跡数が増加する。

Ⅱ　調査の内容及び成果

個人住宅、事務所、倉庫等の建設に伴って埋蔵文化財の保護協議をおこなった結果、平成21年度は12ヵ所の開発行為に対して調査等を実施した（図１、表１)。調査方法の内訳は、試掘調査が３件で、９件が工事立会である。原因では個人住宅建設が５件、個人用倉庫建設が３件、事務所建設が１件、艇庫建設が１件、休憩所建設が１件、落石防護柵建設が１件となっている。昨年の11件に比して件数は１件増えた。実際に調査に至った遺跡は

3ヵ所であったが、得られた遺物の点数は少量で、本調査へ移行が必要と判断されるものはなかった。
以下に調査の内容と成果を記述する。

1．川久保遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字野尻字新町980－4
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	38㎡（工事面積）
調査日	平成21年8月31日
出土遺物点数	0点

B．遺跡の環境

遺跡は野尻湖から約200m北西に位置する（図1）。旧国道18号線は江戸時代に整備された北国街道で、遺跡はこの道路の両側に、細長い範囲で広がっている。寺山と呼ばれる山の西側の裾野で、西側に広がる池尻川低地（西たんぼ）へ緩やかに下る斜面に立地している。この地域の地図が更新されていないために図2では古い地図を用いたが、この図の破線部の国道18号線（野尻バイパス）は平成15年（2003）に開通している。

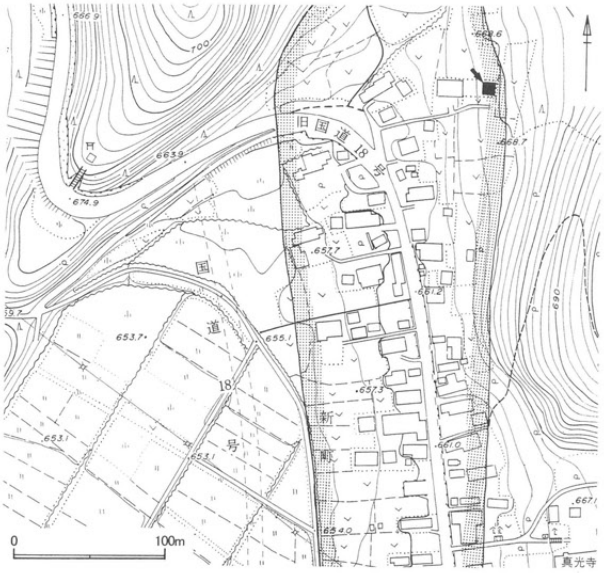


図2　川久保遺跡の範囲と調査地の位置

川久保遺跡　工事立会

川久保遺跡は古くからその存在が知られ、縄文土器や土師器が採集されていて、信濃史料の遺跡の地名表に掲載されている（信濃史料刊行会，1956）。

この遺跡の隣接地で野尻バイパス建設に先立って試掘調査がおこなわれた結果、この路線上まで川久保遺跡が広がっていることが確認され、長野県埋蔵文化財センター（以下、県埋文センターと略す）によって平成11年～12年（1999～2000）に6,500㎡にわたって発掘調査が実施された（長野県埋蔵文化財センター，2004）。縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世の遺物が出土したが、特に信濃町では出土例が少なかった古墳時代の遺物がまとまって出土したことが特徴とされている。なお、この発掘調査によって野尻バイパスの建設地まで遺跡の範囲が広がることが確認されたが、信濃町の遺跡地図（信濃町教育委員会，2003b）には反映されなかったため、遺跡の範囲は調査以前のままとなっている。このほかに平成13、14年（2001、2002）に下水道工事に先立って試掘調査が実施され、少量の遺物が得られている（信濃町教育委員会，2003a）。

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅用の倉庫の建設が計画された（図2）。計画は既存の倉庫を撤去した後に、ほぼ同位置に建設するというもので、既存の建物の基礎工事及びその撤去によって大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高いと判断されたため、対応は工事立会とした。

基礎工事のために小型のバックホウによって幅約60cm、深さ約50cmを掘削したところで地層を確認した。地表下約30cmまでは埋め土であったが、その下には暗褐色土と黄褐色ロームが残されていた。前者は野尻湖周辺の地層区分で［モヤ］とされ、後者は［上Ⅱ上部］とされている層準である。この層から遺物が出土する可能性があったため、慎重な掘削を依頼したが、遺構、遺物は確認できなかったことから、遺跡に大きな影響はないと判断し、調査を終了した。

2．家老路城跡

A．概要

所在地　　信濃町大字野尻字舟瀬231－3
原因　　落石防護柵設置
調査方法　　工事立会
調査面積　　40㎡（工事面積）
調査日　　平成21年11月27日
出土遺物点数　0点

B．遺跡の環境

野尻湖の北岸のほぼ中央部に南へ張り出す樅ヶ崎と呼ばれる岬があるが、この岬の頂部付近の緩傾斜地一帯が家老路城跡となっている。中世の山城とされているが、発掘調査等が実施されていないため、詳細は不明である。

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内を野尻湖周遊道路が横断しているが、その道路沿いで崖崩れがおきており、道路脇に落石防護柵を設置するという工事が計画された（図３）。昨年も同様の工事が今回の工事箇所の北側で実施され、工事立会をしている（信濃町教育委員会，2009）。昨年と同様に崖の崩落によって遺跡は残されていないことを確認し、調査を終了した。

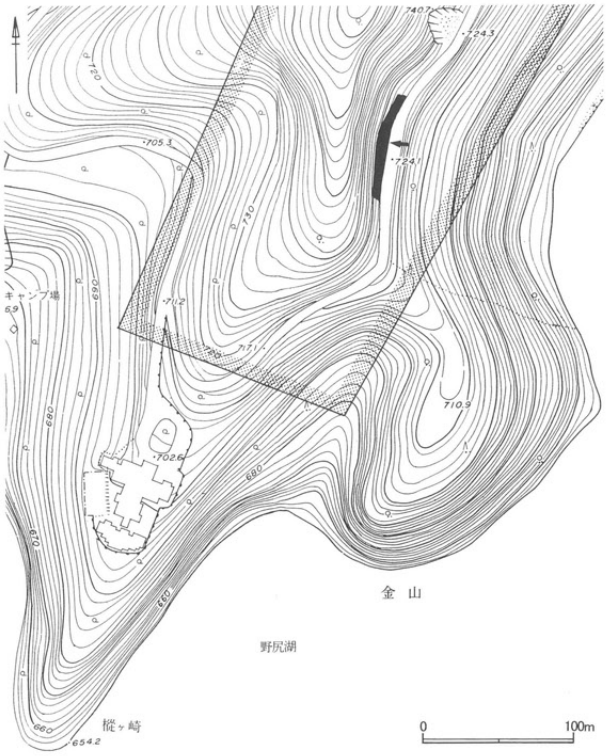


図３　家老路城跡の範囲と調査地の位置

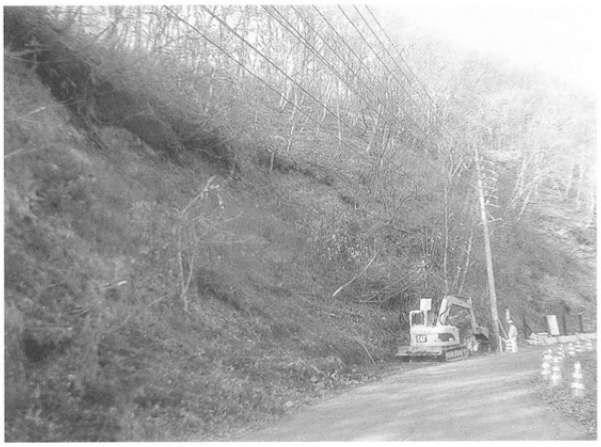
３．桐久保遺跡

A．概要

所在地　　信濃町大字古海字川内桐久保4668
原因　　艇庫建設
調査方法　　工事立会
調査面積　　44㎡（工事面積）
調査日　　平成21年４月18日
出土遺物点数　0点

B．遺跡の環境

野尻湖東岸の中央やや北側に、西へ張り出す寺ヶ崎という岬があるが、この岬の南側の入り江に広がる遺跡で、湖底部分を含めて遺跡の範囲となっている（信濃町教育委員会，2003b）。この遺跡内ではこれまでに発掘調査はおこなわれていないが、古くから住民による遺物の採集がされており、縄文土器や土師器の土器片、石器が信濃町教育委員会に寄贈されている。これらの寄贈資料は未報告であり、詳細は不明である。



家老路城跡　工事立会

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で大学の研修施設の艇庫（ボート小屋）の建設が計画された（図４）。艇庫の建て替えで、既存の建物を撤去した後、ほぼ同位置へ同規模の建物を建設するというもので、既存の建物の基礎工事及びその撤去によって大きく改変され、ここに遺跡が残されていない可能性が高いと判断されたため、対応は工事立会とした。

基礎のコンクリートの撤去のため、全体が80cm 程度掘削された。東側部分で土層の状況を確認したところ、地表下約20cm は埋め土で、その下には黒褐色土、暗褐色土などの層を確認した。しかし、建設予定地はコンクリートの撤去で大きく改変されており、ここに遺跡が残されていないと確認できたことから、調査を終了した。

４．海端遺跡

A．概要

所在地　　信濃町大字野尻365
原因　　休憩所建設
調査方法　　工事立会

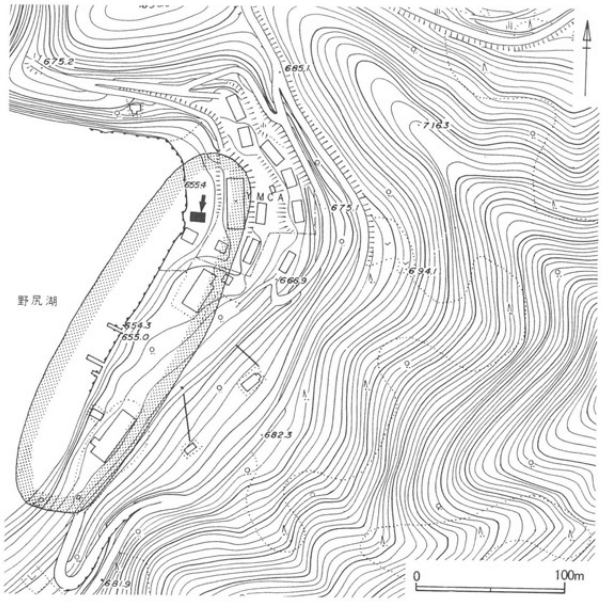
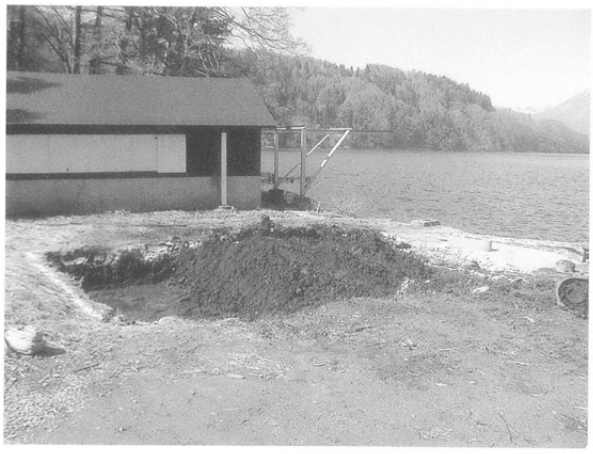


図4　桐久保遺跡の範囲と調査地の位置

図5　海端遺跡の範囲と調査地の位置



桐久保遺跡　工事立会

海端遺跡　工事立会

調査面積　　10㎡（工事面積）
調査日　　平成21年９月16日
出土遺物点数　０点

B．遺跡の環境

野尻湖西岸の中央やや北側に位置する遺跡で、一部湖底を含み、湖岸から仲町丘陵の端部に達する遺跡である。遺跡内で過去に神子柴型尖頭器が２点採集されている。１点は昭和62年（1987）に干上がった野尻湖底で発見された。もう１点は昭和34年（1959）に発見され、昭和62年（1987）に野尻湖ナウマンゾウ博物館に移管されている（信濃町教育委員会，2008a）。しかし、本格的な発掘調査はおこなわれていないため、遺跡の詳細は不明である。倉庫建設に先立って平成18年（2006）に試掘調査が実施されているが、遺構は検出されず、縄文時代早期の土器と土師器が少量発掘されたのみである（信濃町教育委員会，2007）。

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で公園の休憩所の建設が計画された（図５）。建設地には以前、東京大学の寮の建物があり、撤去後は平坦に整地された。寮の跡地に小型の建物を建設することから、過去の建物の基礎工事及びその撤去によって大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高いと判断されたため、対応は工事立会とした。

基礎工事で掘削する部分について、小型のバックホウによって約30cm 掘り下げたところで状況の確認をおこなったところ、埋め土で全体が覆われていたため、ここに遺跡が残されていないことが確認できたので、調査を終了した。

5．小丸山公園遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字柏原2436－9
原因	個人住宅建設
調査方法	工事立会
調査面積	94㎡（工事面積）
調査日	平成21年７月７日
出土遺物点数	０点

B．遺跡の環境

遺跡は伊勢見山の西側に、北西―南東方向にのびる丘陵上に位置する。丘陵頂部の平坦面には国道18号線（旧北国街道）が通るが、この平坦面から南西方向に下る緩斜面に遺跡が広がる。この斜面には柏原地域の共同墓地があり、その中に、江戸時代の俳人小林一茶が眠る小林家の墓があることから、隣接地に俳諧寺や一茶記念館、一茶郷土民俗資料館等が建設され、公園として整備されている。遺跡は柏原町区誌製作の一環でおこなわれた遺跡分布調査によって発見され、表面採集によって旧石器時代の石器、縄文時代早期の土器、土師器などが確認されている（柏原町区誌編纂委員会，1988）。平成11年（1999）に公園整備のために試掘調査が実施されているが、出土遺物は２点のみであり（信濃町教育委員会，2000）、ほかに発掘調査が実施されていないため、遺跡の詳細は不明である。

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図６）。計画では既存の住宅を撤去した後、ほぼ同位置へ建設するというもので、既存の建物の基礎工事及びその撤去によって大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高いと判断されたため、対応は工事立会とした。

基礎工事の部分を小型のバックホウによって約40～60cm 掘り下げたところで状況の確認をおこなったところ、南側は建物があった場所で埋め土であったが、北側には黄褐色ロームが残されていることを確認した。遺物が包含されている可能性が考えられたが、黄褐色ローム層が残る範囲は少なく、遺物の出土が確認できなかったことから、遺跡には大きな影響はないと判断し、調査を終了した。

6．小丸山公園遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字柏原131－8
原因	個人住宅建設
調査方法	工事立会
調査面積	46㎡（工事面積）
調査日	平成21年７月22日
出土遺物点数	０点

B．調査に至る経緯と結果

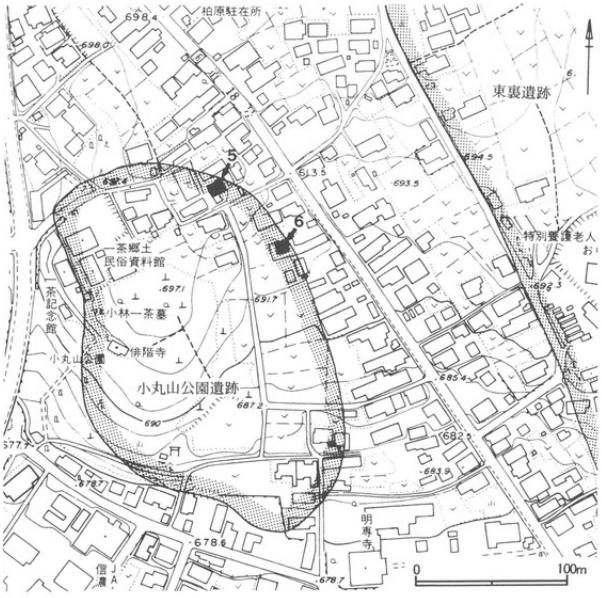
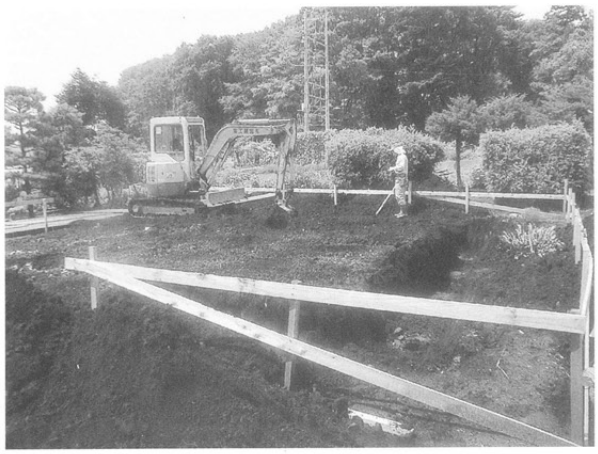


図６　小丸山公園遺跡等の範囲と調査地の位置

小丸山公園遺跡（No.５）　工事立会



小丸山公園遺跡（No.６）　工事立会

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図６）。建設地には以前住宅があり、撤去後は平坦に整地され、その後畑として利用されていた。ここに建物を建設するという計画で、過去の建物の基礎工事及びその撤去によって大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高いと判断されたため、対応は工事立会とした。

基礎工事で掘削する部分を小型のバックホウによって約80cm 掘り下げたところで状況の確認をおこなった。地表下50～60cm まで埋め土であったが、その下には黒褐色土と暗赤褐色土が確認できた。そこには遺物が包含されている可能性が考えられたが、遺構や遺物を確認できなかったことから、遺跡には大きな影響はないと判断し、調査を終了した。

７．仁之倉Ａ遺跡（2009個人住宅地点）

Ａ．概要

所在地	信濃町大字柏原字仁之倉4396－９
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	4.8㎡
調査日	平成21年４月16日
出土遺物点数	４点

Ｂ．遺跡の環境

遺跡は黒姫山麓の西から東へ緩やかに下る傾斜地に位置する。仁之倉集落の中心部よりも西側に、北東―南西方向に細長く広がり、遺跡内は水田、畑地、宅地となっている。

ここは町内で古くから知られた遺跡の１つである。昭和32年（1957）頃に個人によって多数の土器が採集され、それらは縄文時代の早期、前期、中期、後期の土器と弥生土器と鑑定された（柏原町区誌編纂委員会，1988）。昭和33年（1958）に神田五六氏、桐原健氏を担当者に、地元の高校教諭西沢正光氏が中心になって試掘調査が実施され、縄文時代晩期の遺物が出土している。調査の報告は信濃町の公民館報にわずかに掲載されているものの、報告書が刊行されていないため、詳細は不明である。ほかに、宅地内での開発行為に対して工事立会が２度おこなわれている（信濃町教育委員会，2002、2003a）が、遺物等は確認できていない。

Ｃ．調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図７）。建設予定地は以前、工事用の資材置場になっていたとい

図７　仁之倉Ａ遺跡の範囲と調査地の位置

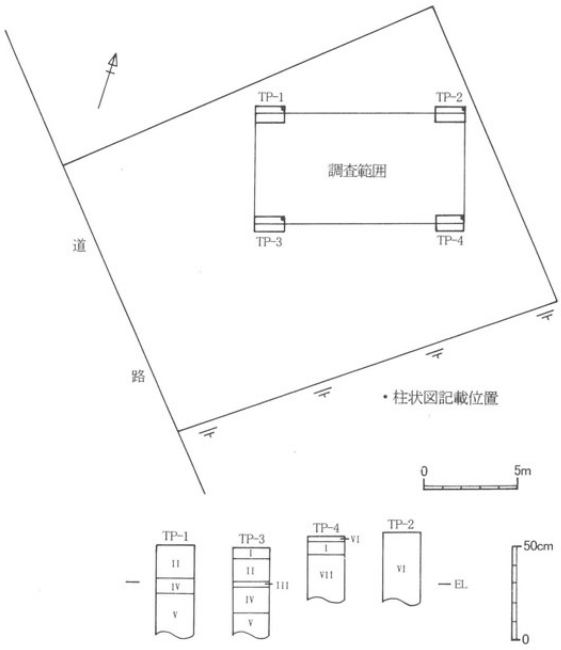


図８　仁之倉Ａ遺跡の調査範囲と土層

仁之倉Ａ遺跡　調査の様子（東から）

仁之倉Ａ遺跡　TP-３の遺物の出土状況（西から）

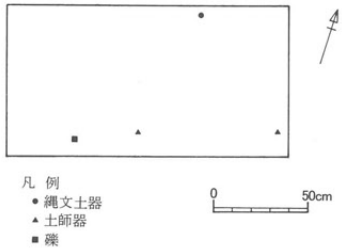


図９　仁之倉Ａ遺跡　TP-3の遺物の分布

うことで平坦に整地されていたが、遺跡がどの程度残されているのかは不明であったため、試掘調査を実施することにした。

住宅建設予定地に1.5×0.8m の試掘トレンチを４ヶ所（TP-１～４、TP はテストピットの略）設置し（図８）、試掘トレンチを地表面から手掘りによりおこなった。

すべての試掘トレンチが埋め土と砕石で覆われていた。TP-３で埋め土の下位の黒褐色土（Ⅳ層）から縄文土器片１点、土師器片２点、明褐色土（Ⅴ層）から礫１点が出土した。黒褐色土はかつての耕作土と思われ、その中から縄文土器と土師器の小片が混在して出土しており、遺構も検出できなかったことから、遺跡は原位置で残されていないと判断した。遺跡が残されている範囲が少ないことから本調査は必要ないと判断し、調査を終了した。縄文土器１点には横位の絡条体圧痕文が施文されており、縄文時代早期の末葉に位置づけられる。礫は角がとれた安山岩の角礫で、焼けが認められることから礫群を構成する礫の１つと推測できるが、１点のみの出土であり、伴う遺物がないことから、所属時期、用途は不明である。

８．陣場Ａ遺跡（2009個人住宅地点）

Ａ．概要

所在地	信濃町大字古間字陣場429-４
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	4.8㎡
調査日	平成21年９月14日～９月15日
出土遺物点数	１点

Ｂ．遺跡の環境

遺跡は黒姫山から東側へ緩やかに下る山麓の末端部付近に位置する。北側にある鳥居川とは５ｍ程度の比高差があり、一段高い台地上の地形の平坦面に、東西方向に細長く遺跡が広がる。古間村誌には「里俗伝に養和元年、木曾義仲、城資職を横田河原に破り、越後へ進軍の際、宿陣せし所と云ふ」とあり（長野縣町村誌刊行會，1936）、陣場と呼ばれる地籍の伝承が記されている。遺跡の時代は旧石器時代と平安時代とされている（信濃町教育委員会，2003b）が、これまでに発掘調査はおこなわれておらず、遺跡の詳細は不明である。北東側に隣接する一里塚遺跡では、試掘調査等によって古代、中世等の遺物が確認されており（信濃町教育委員会，1996、2002、2007）、今回の調査地についても同時代の遺跡が広がっていることが予想された。

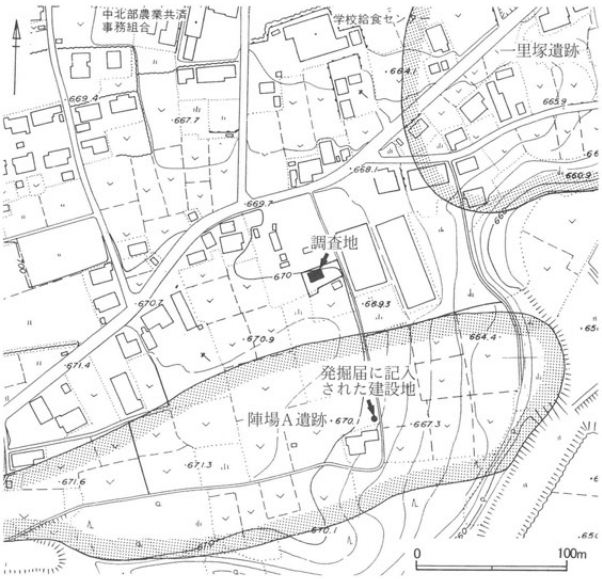


図10　陣場Ａ遺跡等の範囲と調査地の位置

しかし、発掘の届出書の位置図に誤りがあり、実際の調査地は届出書で示された位置よりも100m 程北側になることが調査当日に判明し、遺跡の範囲からはずれることになった。これは書類手続きをおこなった設計事務所が現地を確認しなかったことによって生じたもので、建設地の確認について、さらに慎重な対応が必要との認識にさせられた事例であった。

陣場Ａ遺跡　調査の様子（南から）

陣場Ａ遺跡　TP－３の遺物の出土状況（西から）

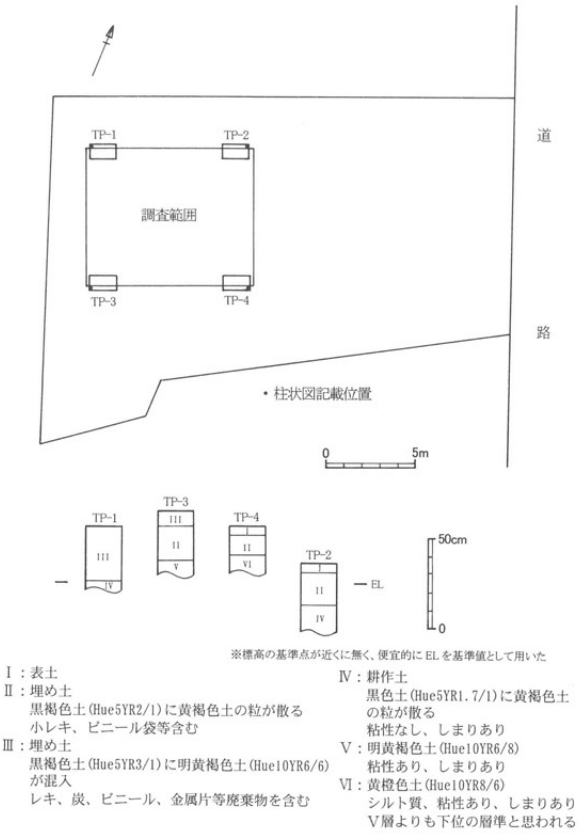


図11　陣場Ａ遺跡の調査範囲と土層

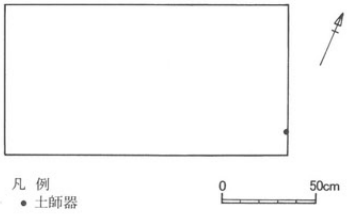


図12　陣場Ａ遺跡　TP－３の遺物の分布

Ｃ．調査に至る経緯と結果

個人住宅の建設予定地は畑地とされていたため、これまでに大きな改変を受けていないものと考えられたことから、試掘調査を実施することにした。しかし、実際は遺跡の範囲外であり、平坦な荒蕪地であった（図10）。調査の準備がすべて整っていたこともあり、調査は予定通り実施した。

住宅の基礎工事の実施予定地に1.5×0.8m の試掘トレンチを４ヶ所（TP－１～４）設置し（図11）、工事で掘削する予定の40cm の深さまでを、地表面から手掘りによって発掘した。

すべての試掘トレンチで廃棄物を含んだ20～30cm の埋め土を確認した。隣接して土木業者の資材置場があり、かつてこの地点まで広がっていたということから、資材置場であった時点で埋め土がなされ、整地されたものと思われる。埋め土から土師器片１点が出土した（図12）。小片のために時期の特定はできなかった。また、撹乱を受けた土層からの出土であるため、原地性が低い遺物と判断した。埋め土の下位は黄褐色系の土となり、黒ボク土は調査地内には残されていなかった。縄文時代までの遺物を含む黒ボク土がないことが確認できたため、この地点においては遺跡が残されていないと判断し、調査を終了した。

９．水穴遺跡（2009事務所地点）

Ａ．概要

所在地	信濃町大字富濃字水穴2574－１
原因	事務所建設
調査方法	試掘調査
調査面積	4.8㎡
調査日	平成21年11月９日

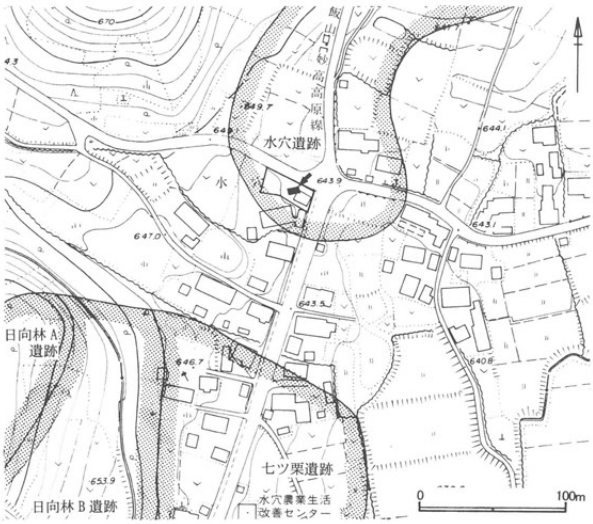


図13　水穴遺跡等の範囲と調査地の位置

水穴遺跡　調査の様子（南東から）

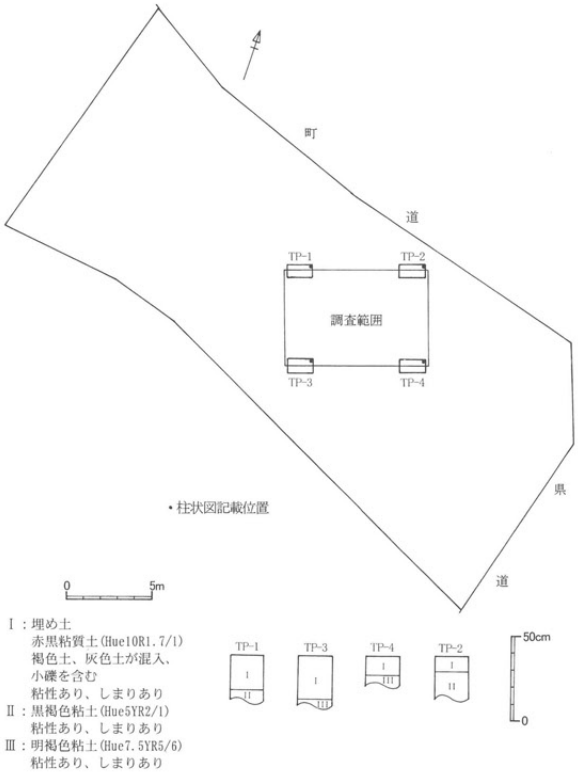


図14　水穴遺跡の調査範囲と土層

出土遺物点数　1点

B．遺跡の環境

遺跡は野尻湖の南端部にある山地から南へのびる尾根と、城山との間の谷に形成された、南へ下る緩斜面に位置する。畑地から水穴集落の宅地に広がり、平安時代の遺跡とされている（信濃町教育委員会，2003b）が、これまでに発掘調査がおこなわれていないことから、遺跡の詳細は不明である。

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で工務店の事務所の建設が計画された（図13）。建設予定地は平坦に整地されており、かつてここに建物があったという。しかし、その位置が今回計画された建物の位置とほとんど重ならないということであったため、状況を確認するために試掘調査を実施することにした。

調査は事務所の基礎工事の予定地に、1.5×0.8m の試掘トレンチを4ヶ所（TP-1～4）設置し（図14）、基礎工事で掘削する予定の45cmの深さまで地表面から手掘りによって発掘することにした。

全ての試掘トレンチで埋め土が地表面を覆っているのを確認した。また、10～30cm 程度掘り下げたところ、粘土層から水が染み出してきた。縄文時代までの遺物包含層である黒ボク土は埋め土の下に残されておらず、水成層の粘土層が出てきたため、この地点に遺跡が残されていないことが確認でき、本調査は必要ないと判断されたため、予定の深さまでは掘り下げずに調査を終了した。なお、埋め土から土師器片が1点出土したが、小片のために所属時期は特定できなかった。

10．大道下遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字穂波字原大道上1968-11
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	42㎡（工事面積）
調査日	平成21年11月10日

出土遺物点数　0点

B．遺跡の環境

遺跡は落影集落の北にあり、鍋山から北西側へ緩やかに下る斜面上に位置する。遺跡の中央には旧北国街道の国道18号線が通る。遺跡内ではこれまでに5回の発掘調査及び試掘調査が実施されている（図15）。平成元年（1989）には町道建設に伴う発掘調査により縄文時代早期の遺物が多数出土している（信濃町教育委員会，1994）。平成2年（1990）にはコンクリート工場の建設に先立ち試掘調査がおこなわれ、平成3年（1991）には畑地の埋め立て事業に先立ち、発掘調査が実施されている（信濃町教育委員会，2008c）。平成8年（1996）には埋め立て事業に伴って試掘調査が実施され、縄文時代早期の遺物が多数得られている（信濃町教育委員会，1997）。平成19年（2007）には工場兼店舗の建設に伴って試掘調査がおこなわれ、旧石器時代のAT降灰直後の時期の石器群が検出されている（信濃町教育委員会，2008b）。以上のように過去に多くの地点で調査が実施されており、旧石器時代、縄文時代を中心とした遺跡であることが知られている。

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で農業用倉庫の建設が計画された（図15）。この周辺では国道拡幅が予定されており、拡幅の用地内にあたる倉庫を撤去し、それに替わる倉庫を東側に新築するというものであった。基礎工事によって掘削する範囲は狭く、発掘調査は困難と判断されたことから、工事立会とした。建設予定地は建物が撤去され、すでに平坦に整地された場所であった。基礎工事で掘削する部分を小型のバックホウによって約50cm掘り下げたところで状況の確認をおこなったところ、遺物包含層である柏原黒色火山灰層（黒ボク土）、黄褐色ローム層は残されておらず、この地点には遺跡は残されていないことが確認できたため、調査を終了した。

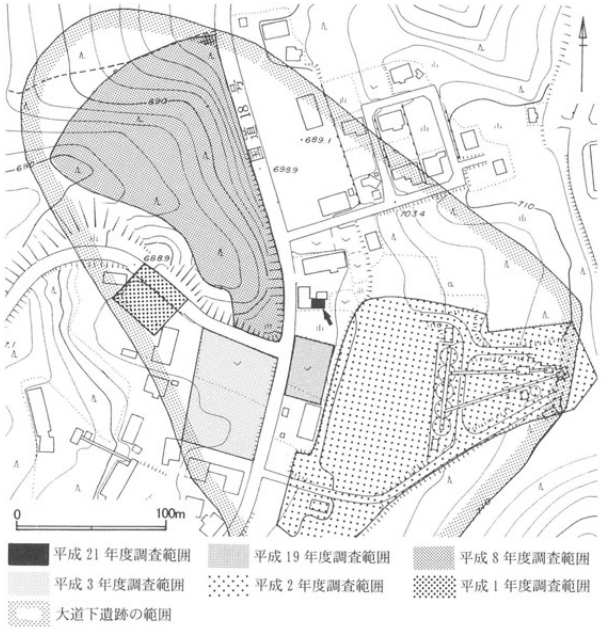


図15　大道下遺跡の範囲と調査地の位置

大道下遺跡　工事立会

11．御料遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字平岡字前屋敷添1681
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	45㎡（工事面積）
調査日	平成21年7月3日
出土遺物点数	0点

B．遺跡の環境

遺跡は低地の中の微高地に形成された御料という集落のほぼ全体にわたり、縄文時代と平安時代の遺跡とされている（信濃町教育委員会，2003b）。これまでに個人住宅建設に伴う工事立会（信濃町教育委員会，2008b）がおこなわれているが、本格的な発掘調査はおこなわれていないことから、遺跡の詳細は不明である。

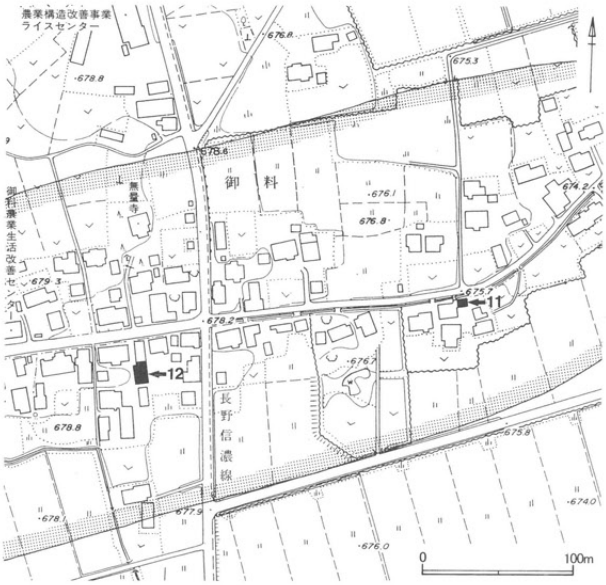


図16　御料遺跡の範囲と調査地の位置

C．調査に至る経緯と結果

遺跡内で倉庫の建設が計画された（図16）。計画では既存の倉庫を撤去した後に同位置へ新築するというもので、既存の建物の基礎工事及びその撤去によって大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高いと判断されたため、対応は工事立会とした。

基礎工事で掘削する部分を小型のバックホウによって約50cm 掘り下げたところで状況の確認をおこなったところ、地表下約30cm は砕石と埋め土となっており、その下には黒褐色土が残されていた。この黒褐色土はほとんど掘削されないため、遺跡が大きく破壊されることはないと判断し、調査を終了した。

御料遺跡（No.11）　工事立会

12．御料遺跡

A．概要

所在地	信濃町大字平岡字前屋敷添1551
原因	個人住宅建設
調査方法	工事立会
調査面積	106㎡（工事面積）
調査日	平成21年10月２日
出土遺物点数	０点

B．調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図16）。建設地には最近まで農業用倉庫があり、撤去後は平坦に整地されていた。ほぼ同位置に倉庫と同規模の住宅を建設するというもので、過去の建物の基礎工事及びその撤去によって大きく改変され、遺物が残されていない可能性が高いと判断されたため、対応は工事立会とした。

御料遺跡（No.12）　工事立会

基礎工事で掘削する部分を小型のバックホウによって約40cm 掘り下げたところで状況の確認をおこなったところ、全体にわたってすでに改変を受けており、この地点に遺跡が残されているところはほとんどないことが確認できたため、調査を終了した。

文献

柏原町区誌編纂委員会　1988『柏原町区誌』
小山正忠・竹原秀雄　1967『新版　標準土色帖』
信濃史料刊行会　1956『信濃史料　第１巻上』
信濃町教育委員会　1994『丸谷地遺跡・大道下遺跡発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　1996『上ノ原遺跡（４次）ほか発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　1997『大道下遺跡（４次）ほか信濃町内遺跡発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　2000『仲町遺跡（個人住宅地点）ほか発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　2002『仲町遺跡・一里塚遺跡2001個人住宅地点発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　2003a『平成14年度町内遺跡発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　2003b『信濃町の遺跡分布図』
信濃町教育委員会　2007『平成18年度町内遺跡発掘調査報告書―清明台遺跡ほか―』
信濃町教育委員会　2008a『七ッ栗遺跡発掘調査報告書―神子柴型石斧と旧石器・縄文時代の遺跡―』
信濃町教育委員会　2008b『平成19年度町内遺跡発掘調査報告書―大道下遺跡ほか―』
信濃町教育委員会　2008c『杉久保遺跡・野尻一里塚ほか信濃町遺跡調査の概要』
信濃町教育委員会　2009『平成20年度町内遺跡発掘調査報告書―神山Ｂ遺跡ほか―』
長野縣町村誌刊行會　1936『長野縣町村誌　北信篇』
長野県埋蔵文化財センター　2004『一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書４　信濃町内その４』

表 2　仁之倉 A 遺跡　土器観察表

トレンチ	遺物番号	遺物名	部位	出土層準	文　　様	調整	含有物	繊維痕	色　調		器壁厚さ(mm)	時期	写真番号
									外面	内面			
TP-3	2	縄文土器	胴部	Ⅳ	絡条体圧痕+沈線	ナデ	qt ho 白 赤 小レキ	有	橙	にぶい褐	10	早期	1
TP-3	1	土師器	胴部	Ⅳ			qt ho 白 赤		にぶい橙	橙	5		3
TP-3	3	土師器	口縁	Ⅳ			qt ho 白 赤		にぶい黄橙	にぶい橙	5～10		2

qt：石英、ho：角閃石、白：白色岩片、赤：赤色岩片、小レキ：小さな礫を表す

表 3　仁之倉 A 遺跡　礫属性表

トレンチ	遺物番号	出土層準	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	割れあり○なし×	割れの割合%	焼けあり○なし×	平面形(長)	平面形(角)	写真番号
TP-3	4	V	11.1	5.9	5.3	434.0	○	50	○	長	角	6

表 4　陣場 A 遺跡　土器観察表

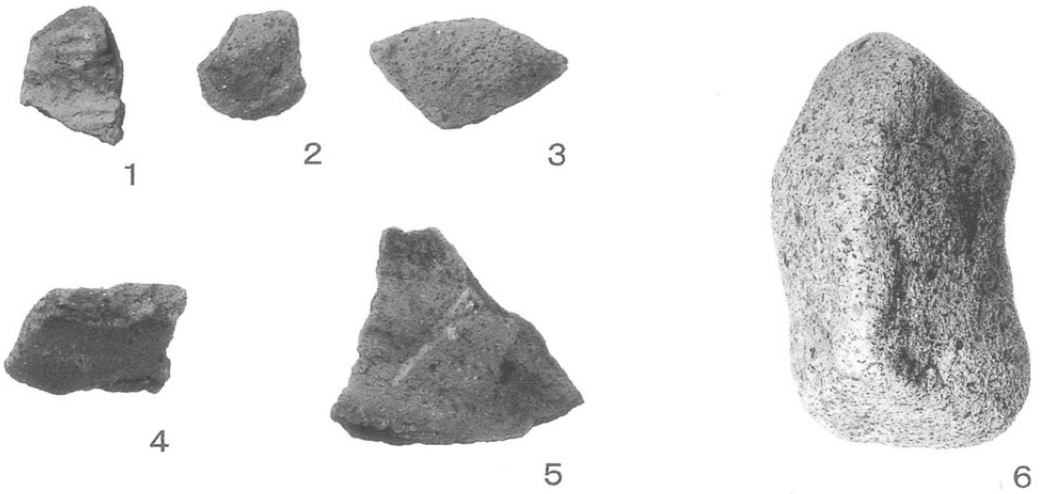
トレンチ	遺物番号	遺物名	部位	出土層準	調　整	含　有　物	色　調		器壁厚さ(mm)	摘　要	写真番号
							外面	内面			
TP-3	1	土師器	胴部	Ⅱ	ロクロナデ	qt ho 白 赤 小レキ	橙	橙	9	甕，口縁付近	4

qt：石英、ho：角閃石、白：白色岩片、赤：赤色岩片、小レキ：小さな礫を表す

表 5　水穴遺跡　土器観察表

トレンチ	遺物名	部位	出土層準	調　整	含　有　物	色　調		器壁厚さ(mm)	摘　要	写真番号
						外面	内面			
TP-4	土師器	胴部	Ⅰ	ロクロナデ	qt ho 白 赤 小レキ 水晶	にぶい黄橙	にぶい橙	6～11	底部付近	5

qt：石英、ho：角閃石、白：白色岩片、赤：赤色岩片、小レキ：小さな礫を表す、水晶：2 mm 以上の結晶を表す



1～5のスケール　0　5cm

6のスケール　0　5cm

出土遺物　1～3・6 仁之倉 A 遺跡　4 陣場 A 遺跡　5 水穴遺跡（番号は表 2～表 5 の写真番号に対応する）

報 告 書 抄 録

書　　名	平成21年度町内遺跡発掘調査報告書
副 書 名	
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	渡辺哲也
編集機関	信濃町教育委員会
所 在 地	〒389-1305　長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2　TEL：026-255-5923
発行年月日	2010年（平成22年）3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
仁之倉A	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字仁之倉4396-9	20583	78	36度 47分 50秒	138度 10分 55秒	20090416	4.8 （工事面積70）	個人住宅 建設
陣場A	長野県上水内郡信濃町 大字古間字陣場429-4	20583	87	36度 47分 47秒	138度 12分 33秒	20090914 ～ 20090915	4.8 （工事面積67）	個人住宅 建設
水穴	長野県上水内郡信濃町 大字富濃字水穴2574-1	20583	110	36度 48分 27秒	138度 14分 00秒	20091109	4.8 （工事面積46）	事務所 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物	特記事項
仁之倉A	散布地	縄文時代 古代	縄文土器など4点	
陣場A	散布地	古代	土師器　1点	
水穴	散布地	古代	土師器　1点	

平成21年度町内遺跡発掘調査報告書

発　行　平成22年（2010）3月31日
発行者　信濃町教育委員会
〒389-1305
長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2
TEL　026-255-5923
印　刷　信毎書籍印刷株式会社
〒381-0037
長野県長野市西和田1-30-3
TEL　026-243-2105